

飼料作物に対する雑草の影響

上田允祥・川口俊春 (福岡県農業総合試験場)

UEDA, M. and T. KAWAGUCHI : Influences of Weeds on the Growth of Forage Crops

春夏作飼料の栽培に於て、雑草の影響は無視できぬものであり、適切な雑草対策を講じない場合、良好な生育は望めない。本試験では飼料作物の生育初期段階における除草時期と飼料作物の関係を明らかにすることにより、雑草防除技術確立の参考に資することを目的に除草時期の限界を検討した。

1. 材料および方法

Ⅰ試験 1981年5月20日、トウモロコシ (スノーデント2号) を66×10cm点播、ソルガム (パイオニア988) を50cm畦間に播種し、除草時期を下記の3区設定した。

	トウモロコシ	ソルガム	除草月・日
A	5葉期	4葉期	6・16
B	7～8	6～7	6・25
C	11～12	9～10	7・3

Ⅱ試験 トウモロコシを重点に再度除草時期の検討を行った。試験はトウモロコシ (スノーデントA号) を供試し、1982年6月8日に75cm条播した。除草時期を葉令2, 4, 6, 8の4段階設定した。

2. 結果および考察

Ⅰ試験

1. 雑草の生育

主要な雑草としてメヒシバ、エノコログサ、ノビエがみられたが、雑草の最盛期はエノコログサ7月中旬、メヒシバ7月下旬～8月上旬、ノビエ8月下旬～9月上旬だった。最盛期の8月18日でa当り生育346kg、乾物で104kgときわめて旺盛な生育を示した。

2. トウモロコシの生育

各処理を通して圃場が湿潤なためトウモロコシの生育は悪く、除草区でもa当り280kgの収量だった。放任区では160kgの収量であり、雑草470kgと完全に雑草の生育に抑圧された。除草時期を5葉期から3回設定し、生育収量の

第1表 トウモロコシ絹糸抽出期収量 (8/11)

処 理	生 草		乾物kg/a		個体g/本	
	kg/a	収量	標比	重量	標比	
A	262.5	42.0	86	45.0	72	
B	187.5	30.8	63	42.1	68	
C	195.0	28.5	59	36.5	59	
除 草	285.8	48.6	100	62.3	100	
放 トウモロコシ	162.5	22.4	46	17.3	28	
任 雑 草	470.0	82.7	—	—	—	

比較をおこなったが乾物収量および個体の生育程度から早期除草程、トウモロコシの生育は良好な傾向がみられた。

(第1表) トウモロコシの安定多収をえるためにはなんらかの雑草対策は必須と考えられた。

3. ソルガムの生育

第2表にソルガムの調査結果を示したが、トウモロコシ同様、早期除草の効果が認められた。

第2表 ソルガム出穂期生育収量 (8/11)

処 理	生 草		乾物kg/a		個体g/本	
	kg/a	収量	標比	重量	標比	
A	300	48.6	64	16.3	64	
B	258	42.2	55	13.3	53	
C	213	38.3	50	14.0	55	
除 草	462	76.2	100	25.3	100	

Ⅱ試験

トウモロコシと雑草の関係において早期雑草防除程、トウモロコシの生育良好な傾向が認められたので再度、2～8葉期に除草を実施し、トウモロコシの生育収量を調査した。(第3表) この試験でも2葉期の除草が最も良好な生育であり、早期除草の必要性がうかがえた。

第3表 トウモロコシの生育収量

	放任	除 草 時 期			
		2葉	4葉	6葉	8葉
雄 草丈cm	119	174	151	128	124
穂 生草kg/a	68	201	133	133	100
抽 乾物率%	21.1	24.6	22.7	18.7	19.9
出 乾物kg/a	14.4	49.4	31.5	24.8	19.9
草丈cm	139	178	164	164	154
黄 生草kg/a	55	200	156	148	129
乾物率%	35.7	39.5	40.7	36.1	36.2
熱 乾物kg/a	19.4	79.0	63.4	53.5	46.6
対 標 比	27	100	74	59	49

3. まとめ

ソルガムは雑草により初期生育は影響されるが、2番草への影響はほとんどみられず、防除対策の必要性はすくない。トウモロコシでは早期雑草防除程生育良好であり、播種時の除草剤散布等は必須と考えられた。